

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400255		
法人名	医療法人仙知会		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	秋田県大館市松木字122番地5		
自己評価作成日	平成30年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にもあるようにゆっくりとその人らしく暮らす為に、個々の希望等を傾聴して実現できるように支援しております。また田園の中に立地しており、小鳥等身近で眺める事が出来、喜ばれる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、入居者の写真と様子を書き添えたかけはし通信を家族へ郵送しており、事業所内での日常が伝わってくると家族から好評である。また、入居者、家族と職員が昼食を共にする家族の会が年1回開催されており親睦を深めることに貢献している。事業所では決まった日課がなく、入居者が、その日その日で興味を持ったことを活動として提供している。事業所に入居している間はもちろんのこと、退去後も家族からの相談にのるなど、途切れない関係を心掛けていることから、頼りにされる事業所として地域から認められつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の付く場所にかけはし理念を掲げています。職員全員で共有し、常に実践に繋がっています。	開設当初から法人の理念を実践の基礎とし、ミーティング等で話題にして、共通理解が図られるよう取り組んでいる。最近では、職員の中から事業所独自の目標をつくろうと声が上がっている。	職員との話し合いを進めていただき、事業所独自の目標づくりに取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加させて頂いています。運動会への参加や、地域からお琴演奏の慰問もあり利用者様が大変喜ばれていました。	昨年度から加入した町内会から、運動会などの行事の案内が来たり、野菜や山菜の差し入れがあるなど地域の中の事業所として認められてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近郊住民との交流をもち、施設での生活スタイルを理解して頂けるように協力をお願いしたり、挨拶を交わしたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて情報交換や近況をさせて頂いています。また、解らない事など相談し助言を頂いております。	事業所のある松木町内に住む管理者が、運営推進会議の開催案内を直接お会いして配り、参加を呼びかけることで、町内会長、民生委員、地域包括支援センターからの出席が毎回確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者様には常に連絡をとり、かけはしでの実状やサービス内容を伝えています。生活保護受給者の方の相談や報告を密に取り合っています。	大館市の担当課と地域包括支援センターへ、外部評価の結果を提出し、事業所の現状を知らせると共に、運営面での相談を電話連絡等で行い協力関係を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないように研修をし職員全員理解しています。が必要に応じて家族様や他機関と協議を重ねる場合もあると思います。	身体拘束の事例が1件あったが、マニュアルに基づき組織としての検討と本人、家族への同意を受け行われていた。その入居者は、間もなく入院となりそのまま退去され、現在、対象者はいない。身体拘束の及ぼす影響を理解するための研修が開催されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の勉強会を開催し、絶対してはならない事を理解しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援を受けている方も入居されており、必要性を職員は理解しています。外部研修に参加させて頂き、勉強会を開催しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時において利用者様や家族様に不安がないように配慮して説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は日々傾聴しています。また、家族様から面会時に要望等尋ねるように心がけています。行事などに反映しています。	入居者、家族と職員が昼食を共にする家族の会が年1回開催され、意見や要望を聞く機会がある。入居者ごとに家族との連絡ノートが用意され、電話等で話した内容が整理されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サイボウズを媒体として利用し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させています。	職員の要望を聞き入れ、研修に派遣している。特に冬季間は、車の移動の負担を考慮し、地元で開催される研修に派遣している。サイボウズは、弘前市にある法人本部との連絡ツールとして活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、労働時間等に関しては本部人事労務課で状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員との個別面談を適宜行い、職員一人ひとりのケアに努めています。法人外研修の機会を設け、費用は法人で負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の青森弘前グループホームさくらや、能代グループホームまつかぜとの連携を図っています。ネットワークを通じての支援や連携を通じて、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とコミュニケーションをとり、困った事や不安な事等に傾聴して安心して生活出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談で家族様の希望や要望を傾聴し、良い関係作りに努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一人ひとりの性格や日々の状態を常に把握して、出来ること等支援し、互いの信頼関係を構築出来るように努力しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との関係を継続出来るように支援しています。電話の取次やかけはし通信で日々の生活をお知らせしております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事へ参加したり、かかりつけ医院へ出かけたり、馴染みの理容院での関係を継続出来るように支援しています。	季節ごとの墓参りや生家の訪問等は、入居者の様子に配慮しながら、一緒に出掛けている。日常では、事業所に掛かってくる電話を取り次ぐなど、関係継続に取り組んでいる。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、レクリエーションや共同作業において孤立しないように心がけています。より良い人間関係を築け、安心して生活出来るように支援の努めています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了された家族様からの相談事について、情報等を提供し支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を大事にし、可能な限り実現できるように支援しております。	ケース記録を読み返した際に、入居者の思いが把握しやすいように、日常の会話から気付いた言葉などが青色のペンで記載されている。そこには、食べたい物や行きたい場所などが記載されている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他施設、医療関係者からの聞き取りで情報収集し、現在の生活に繋げています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを記録し把握して、その方にあつた支援ができるように努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を取り入れ、チームで月末アセスメントやモニタリングを繰り返して、現状状況に沿った介護計画を作成しています。	毎月モニタリングを実施し、入居者の状態を確認している。このモニタリングの積み上げから、入居者に必要なサービスをくみとり、入居者と家族の要望を組み入れた介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の様子をケアを記録や気づきノートに記録しております。職員全体で共有し今後の介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な運営推進会議に市や包括支援センター、町内会長、副会長、民生委員の参加協力をして頂いております。警察署や消防署の協力を得ています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院により継続的な医療を受けるように支援しております。またかかりつけ薬局には薬の配達をして頂けるように協力を得ております。	日常の通院は、家族に対応をお願いしている。急な対応や家族が行けない場合は、主に管理者が通院支援している。歯科の受診は、必要に応じて往診にて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医院との連携は取れておりますが、看護職は在籍しておらず、訪問看護との相談協力はしたことがありません。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、本人、家族様、病院関係者と情報交換し今後の支援づくりにつながるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談で重度化した場合や終末期のあり方についての説明を行っている。日々家族様と情報交換しながら、職員で支援する体制づくりをしている。	重度化した場合と終末期の対応について、入居時に説明し同意を得ている。入居者の急変時の対応方法や緊急連絡先等は、職員間で共有されている。	重度化や終末期の際の対応について、契約時に口頭で説明しているが、本人や家族と共通認識を持つためにも、事業所としての考え方を書面化することに期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しており、内部研修をしている。急変時には救急車を呼ぶようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の避難訓練の実施をしています。消防署の指導に基づき冬期屋外移動しました。また、災害時の水、常備食、ランタン、反射ストーブ等の準備をしています。	町内の防災担当者が元消防士であり、アドバイスを請い避難訓練や備蓄に反映させている。救命講習も取り入れ、もしもの時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を把握し個々に対応することを心がけています。また、羞恥心に配慮した支援や改善策を話し合っています。	入居者それぞれの過ごし方を尊重するため、決められた日課は設けていない。入居者が、その日その日で興味を持ったことを提供しており、パズルをしたり、童謡を歌ったりしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活でコミュニケーションを図ることにより、利用者の表出の引き出しや自己決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方は個々により違うので、その方の希望どうりに居室やホールで過ごせるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方々は衣類の好み異なりますが、選べるように支援しています。また二か月に一度、地域の理容院協力出張サービスを行っています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の召し上がりたい希望の聞き取りや、季節や行事にあった食事の支援をしています。また利用者の日々の体調を観察し、それにあった利用者の手伝いを声掛けにて支援しています。	法人の本部から栄養士が考えた献立が送られてくるが、事前に入居者の要望を踏まえた内容に変更することが可能であり、玄関近くの花壇で採れるミニトマトやピーマン、近隣からのいただきものの山菜・漬物等が食卓を彩ることがある。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ある程度、メニューに沿った食事を提供しております。食事量と水分量を記録に残しています。また主治医の指導で体重の増減や水分補給量の調整しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに声掛けしております。夕食後は義歯洗浄剤で毎日洗浄し清潔保持に努めています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの時間間隔をみて声掛けしたり、トイレへ誘導し自立できるように支援しています。	日中は、チェック表を参考に入居者個々に排泄の声掛けをしており、オムツを使用している方はいない。夜間は身体状況等から、ポータブルトイレを設置したり、オムツを使用する入居者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、食事やおやつの工夫をしております。また、体操を取り入れしたり、腹部マッサージを行っています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等し、一人ひとりの状態を確認した後希望どおりに全身浴や、シャワー浴を行っています。基本的に入浴日は決めているが、通院等の時は変更しています。	基本的に午前中を入浴時間とし、入居者ごとに週2回支援している。浴室の脱衣スペースには、入居者の着替えが一揃えずつ備えられており、急な入浴支援にも直ぐに対応できるようになっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や状況に応じて休まれたり、安眠出来るように居室の環境を整えています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの内服薬、や外用薬の用法等を確認し把握している。薬や症状の変化についても絶えず確認している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意向を取り入れて、役割や喜びを分かち合いながら気分転換を図っています。また、主治医の指示において制限されている方は、周りに配慮して支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの当日の健康状態に配慮して近郊へ出かけ、花見、食事、買い物、散歩にと外出機会を支援しています。また、家族様の支援で外泊や外出時の支援をしています。	入居者の体調を考慮しながら、事業所のすぐ近くへ山菜採りに出掛けたり、玄関近くにある花壇スペースでピーマンやミニトマトを育て、収穫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者自らがお金の重要性を理解し支援しています。入居契約時に文書にて同意を得ています。用途については、家族様に相談や月一の報告書類を提出し確認して頂いております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者にかかってくる電話は、取次をして安心出来るように支援しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの清潔保持に毎日努めています。トイレの汚染等があればその都度清掃し、使用者が不快感がないようにしています。居室内の家具の配置したり、食堂空間では、季節感を取り入れた品物を置くように工夫しています。	廊下の幅に余裕があり車椅子でのすれ違いが容易で、天井が高く全体的に明るく広い印象を受けた。事業所の近くに線路が通っているが、窓に防音機能が施されている。面会室があり、家族や友人が訪ねてきても気兼ねなく過ごすことができる。床がフローリングであるため、毎日の掃除機がけを欠かさず行っている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時に適した居場所づくりが出来るように、席の配置替えをしたりしています。また、安全面や個々の体調に合わせた家具の配置をしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はその方に適した家具の配置をしたり自宅で使い慣れた品物を持って来て頂いています。また家族様との写真を飾り、安心して生活出来るようにしています。、	ベッドと衣装ケースは、事業所に備え付けられたものを使用している方々が多い。各居室は、入居者の要望を取り入れながらも、動線が確保されすっきりとした空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行者、車椅子利用者が共に安全に生活出来るように危険防止の為、一人ひとりの合わせた取り組みをしています。		